届け 世界の果てまでも

令和４年１０月７日　No．３８　文責　校長　飯久保一男

１０月３日～１１月９日　小笠原小学校は「読書月間」です。

詩に込められた思い

「みんなちがって，みんないい」という言葉は，耳にしたことがあると思います。３年生の国語の教科書に載っている，金子みすゞの詩「私と小鳥と鈴と」のフレーズです。

私と小鳥と鈴と

金子みすゞ

私が両手をひろげても、
お空はちっとも飛べないが、
飛べる小鳥は私のように、
地面を速く走れない。

私がからだをゆすっても、
きれいな音は出ないけど、
あの鳴る鈴は私のように、
たくさんな唄は知らないよ。

鈴と、小鳥と、それから私、
みんなちがって、みんないい。

詩のタイトルは「私と小鳥と鈴と」ですが，最後の行の「みんなちがって，みんないい」の一つ前の行は，「鈴と，小鳥と，それから私」となっています。「私」「小鳥」「鈴」の順番が変わっています。タイトルでは，上にある「私」が，最後の一行前では，一番下になっています。もちろんこれには，金子みすゞの思いが込められています。

解釈はいろいろあると思いますが，「みんなちがって，みんないい」という言葉は，それぞれが違う長所をもっていて，尊い存在であるという意味に捉えています。金子みすゞにとっては，小鳥と鈴と「私」に優劣をつけるという考えはなく，小鳥や鈴も尊いと考え，大切にする思いから，謙虚な気持ちで，自然に「私」が最後になっていったのではないかと想像しています。

個性は尊重されるべきです。しかし，個性とわがままは区別しなければなりません。「私」ばかりが重視されると「みんなちがって，みんないい」という言葉が，わがままを助長することになってしまいます。金子みすゞが詩に込めた謙虚な「私」とは違う私になってしまいます。

そして，私と小鳥という命あるものとの比較に「鈴」をとり上げています。人・動物と無機物を同等に詩に詠んでいるのは，金子みすゞの「すべてのものは同等の価値をもつ」という思い，「すべてのものが尊い」という思いが込められていると考えています。

2022年度　校長 飯久保 のすすめる本

☆本の名前　日本語を味わう名詩入門 金子みすゞ

☆作者名（本をかいた人）　金子みすゞ

ラベル記号

☆本の紹介☆

金子みすゞさんの「私と小鳥と鈴と」という詩が３年生の国語の教科書に載っています。３年生以上の人は知っている詩だと思います。「みんなちがってみんないい」という言葉も印象に残っていることと思います。この詩集には他にも，東日本大震災のあとにCMで流れていた「こだまでしょうか」という詩も掲載されています。金子みすゞさんのいろいろな詩に出会って，皆さんの心が豊かになれたらいいなぁと思います。

読書月間には教職員のおすすめの本の紹介をしています。私は今年，金子みすゞの詩集を紹介しました。

もう一つ金子みすゞの詩を紹介します。

こだまでしょうか

金子みすゞ

「遊ぼう」っていうと
「遊ぼう」っていう。
「馬鹿」っていうと
「馬鹿」っていう。
「もう遊ばない」っていうと
「もう遊ばない」っていう。
そして、あとで
さみしくなって、
「ごめんね」っていうと
「ごめんね」っていう。
こだまでしょうか、
いいえ、誰でも。

この「こだまでしょうか」の詩は，東日本大震災の直後，日本中が悲しみの中にいるとき，各テレビ局が通常のＣＭを流すことを自粛し，この詩がＣＭとして差し替えられて流されていました。この詩を聞いた人の中には，被災された人々の悲しみや辛い思いに，こだまのように何かを返せないかと考えた人もいたと思います。

…東日本大震災後は，電力不足から，計画停電が取り組まれました。今年の夏にも電力がひっ迫し，もっと考えて電気をつくれと電力会社に不満をもった人もいたと思いますが，震災後の計画停電は意味が違いました。本当の計画停電の意味とは少し違いますが，人々の気持ちは，被災地に電気を送るために，そして，被災されて電気のない生活をされている人々のことを考え，計画停電に従い，我慢をして，被災者の人々を応援していました。

ＣＭでたびたび流されたこの詩は，被災された人々をこだまのように応援することへの影響が大きかったと思います。募金活動やボランティア活動を後押ししていたのではないかとも思います。

金子みすゞは大正から昭和初期を生きましたので，この詩は震災後につくったものではありません。特別な状況のときに限らず，楽しい言葉も，辛い言葉も，謝る言葉も，こだまのように自分に返ってくることを伝えています。最後の二行で，「こだまでしょうか」と問いかけ，「いいえ，誰でも」と終わります。いろいろな人から発せられた言葉や思いに，こだまのように返していくのは，すべての人なのだという金子みすゞの思いが込められた言葉だと考えます。この詩を読んだ人を含めたすべての人が，尊い存在で，誰もが他の人の言葉にこだまのように響き合おうという金子みすゞの崇高な思いを感じます。

小笠原小学校は現在，読書月間「秋の本まつり」中です。
たくさんの本に出会い，心を豊かにしてほしいと思っています。

夕顔

金子みすゞ

お空の星が
夕顔に、
さびしかないの、と
ききました。

お乳のいろの
夕顔は、
さびしかないわ、と
いひました。

お空の星は
それっきり、
すましてキラキラ
ひかります。

さびしくなった
夕顔は、
だんだん下を
むきました。

金子みすゞは，夫と離婚後，最愛の娘と暮らすことが叶わず，服毒自殺をしました。
２６歳の短い生涯を閉じるまで，５００編もの詩を残しています。